

## 「地域に根ざす小児歯科専門医」

ありた小児矯正歯科 院長

有田 信一



略歴 その他：

1977年 福岡県立九州歯科大学卒業  
1977年 福岡歯科大学矯正学教室助手  
1981年 ありた小児矯正歯科医院開業  
1985年～ 長崎大歯学部非常勤講師（予防歯科）  
1985～1990年 長崎市歯科医師会公衆衛生担当理事  
1997～1999年 長崎県歯科医師会理事  
（長崎県口腔保健センター担当）  
2000～2002年 長崎県歯科医師会理事（公衆衛生担当理事）  
日本小児歯科学会専門医指導医、日本矯正歯科学会認定医、長崎小児歯科臨床医会会長、長崎乳幼児医療長崎ネット代表世話人（3人）、長崎乳幼児精神保健研究会理事、長崎フロリデーション協会事務局

### はじめに

日本小児歯科学会の専門医制度も発足後約2年が経過し、学会内では専門医制度も定着した感がありますが、地域住民への認知がこれからの問題でしょう。

今回は、地域における小児歯科専門医の役割について、私の考えを話したいと思います。

### 小児の健康と家族・地域

両親の離婚や父親の失業により、急にう蝕が発生したり、指しゃぶりを始めたりすることを私たちは知っています。このように、子どもの健康は家族の生活や保護者の心理状態の変化を敏感に影響を受けます。

地域の生活環境や行政システムも子どもの健康に影響を与える大きな要因です。

九州各県の3歳児健診結果では、福岡県は29.1%を除き、鹿児島40.4%、大分41.7%、長崎42.5%、宮崎44.4%、佐賀44.8%、沖縄48.6%（全国平均29.8%、東京が20.7%）と、九州各県には乳歯う蝕を予防する地域システムが整っていないとも言えます。これは九州の小児歯科専門医にとっての課題でしょう。

医療体制も各都道府県、市町村で異なり、例えば、乳幼児医療の助成制度は各市町村、対象年齢、一部負担金額、助成方法などでまちまちです。

子どもの健康は最も基本的な権利であるという観点からは、全国一律に義務教育である中学生までは助成対象であるべきでしょう。これが実現することで、子育て中の母親が、専門家に容易にアクセスできるようになるはずで

### 長崎の取り組みの紹介

長崎県の小児歯科医は歯科医師会と連携を持ち、地域行政システムや専門家間の連携事業に関わってきました。その結果「すくすく健診」（歳6ヶ月健診から3歳健診までの定期歯科管理事業）、歯っぴい

ベビーシステム事業（産婦人科における歯科保健教育事業）など、独自の保健システムが実施されています。

又、私も保育所と学校で独自の歯科保健システムを、毎年、改良しながら運用しています。これらの事例を紹介します。

#### まとめ

地域の子どもたちの健康を支援できる要件として、地域に 1) 子どもを優先する理念がある 2) 地域診断や地域実施計画を計画する組織（戦略会議など）がある 3) 子どもの問題を社会へ問題を発信する組織がある 4) 実施計画に沿って実行する組織がある などを挙げる事ができます。

小児歯科専門医も地域の子どもたちの健康作りにおいて、積極的に役割を果たすことが求められています。

## MEMO